

各取組項目の5か年の成果・次期計画への方向性等取りまとめシート

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性	
			実績値	目標値	年度	達成度		
川崎病院								
① 救命救急医療の充実	高齢者の増加に伴い増大する救急需要に対応するため、救命救急医療（三次救急医療）を担う救命救急センターとして「断らない救急」を目指し、救急搬送患者をより効率的に受け入れられる体制の整備を進めます。	三次救急搬送患者応需率	H26実績値 (計画策定前)	97.4%	H28	C	【5か年の成果】 ●救命救急医療を担う救命救急センターとして「断らない救急」を目指し、救急搬送患者をより効率的に受け入れられる体制を整備するため、継続的に医師の安定的な確保、医師事務作業補助者配置に取り組みとともに、令和2年度には救急薬剤師の配置にも取り組みました。 ●また、循環器疾患に係る救急車受入拡大を目指し、循環器内科医師が直接対応するかわさきコロナリーホットラインの運用を令和元年9月から開始。令和2年度には、地域の医療機関に向けて緊急の消化器疾患に対応するため「腹急ホットライン」を開設しました。 ●平成30年度から始まった厚生労働省救命救急センター充実度段階評価については3年連続S級を維持しました。 ●これらの取組の結果、三次救急搬送患者応需率【成果指標】は、毎年目標値を達成しました。 ●救急自動車搬送受入台数【成果指標】は、近隣医療機関の救急医療体制の強化も影響し、平成28年度を除き、毎年目標値を大幅に下回りました。なお、令和2年度はコロナ禍により、市内全体の救急搬送件数が減少しましたが、前年度と同程度の受入台数を維持しました。 ●以上により、成果指標以外の状況も勘案して、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	98.2%以上	H29	C		
			R2実績値 (最終年度)	95.5%	H30	C		
		救急自動車搬送受入台数	H26実績値 (計画策定前)	7,332件	R元	C		【次期計画への方向性】 ●引き続き、三次救急搬送患者応需率を高いレベルで維持し、救命救急医療を担う救命救急センターとして「断らない救急」を目指すとともに、再編整備によるハード面及び人材確保によるソフト面を強化し、より効率的に受け入れられる体制の整備を進めます。併せて二次救急医療の強化にも取り組みます。
			R2目標値 (最終年度)	7,332件	R2	C		
			R2実績値 (最終年度)	5,802件				
② 災害医療機能の維持	災害拠点病院として、災害派遣医療チーム(DMAT)等を保有し、市内外の様々な災害又は事故現場等に医療チーム又は医師を派遣します。また、災害発生時の孤立化(物資供給や電力の途絶など)に備え、必要な食料、飲料水、医薬品の備蓄や、エネルギーセキュリティの向上に取り組めます。	災害派遣医療チーム等の派遣要請応需率	H26実績値 (計画策定前)	90.0%	H28	B	【5か年の成果】 ●災害拠点病院として、市内外の様々な災害又は事故現場に医療チーム等を派遣することを目指し、日本DMAT隊員の維持・確保に努めました。その結果、災害派遣医療チーム等の派遣要請応需率【成果指標】は、毎年1件以上の要請があり、全て目標値を大幅に上回って達成することができました。 ●災害発生時の孤立化に備え、必要な食料、医療水、医薬品の備蓄に取り組みました。その結果、食料・飲料水・医薬品の院内備蓄確保量【成果指標】について、全ての年度において目標値を達成し、3日間以上の備蓄の確保と消費期限に応じた入れ換えを行いました。また一人一日当たりの飲料水を0.5L(H27)から1L(H28)、1.5L(H29)と段階的に増やすとともに、患者さんの状態に応じた摂取しやすい食材への変更も進めました。 ●エネルギーセキュリティの向上に取り組むため、整備を進め、令和2年度はエネルギー棟建設工事に着手しました。 ●災害拠点病院の指定要件である院内災害時医療対応訓練を毎年行いました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「B」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	90.0%以上	H29	C		
			R2実績値 (最終年度)	100.0%	H30	B		
		食料・飲料水・医薬品の院内備蓄確保量	H26実績値 (計画策定前)	3日間分	R元	B		【次期計画への方向性】 ●引き続き災害拠点病院として、災害派遣医療チーム等を維持し、市内外の様々な災害又は事故現場等に医療チーム等を派遣するとともに、災害発生時の孤立化に備え、必要な食料、飲料水、医薬品の備蓄やエネルギーセキュリティの向上に取り組めます。併せて、計画期間内にエネルギー棟及び給水ポンプ棟を整備し、運用を開始します。
			R2目標値 (最終年度)	3日間分	R2	B		
			R2実績値 (最終年度)	3日間分				

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
井田病院							
① 救急医療（初期・二次）の強化	市内における人口増加や高齢化の進展に伴い救急需要が増大することから、より多くの一次（初期）救急患者、二次救急患者を受け入れられるよう、救急告示病院としての体制を強化します。	救急自動車搬送受入台数	H26実績値 (計画策定前)	2,969件	H28	E	【5か年の成果】 ●より多くの一次（初期）救急患者、二次救急患者を受け入れられるよう、救急告示病院としての体制を強化するため、川崎病院の救命救急センターと連携し、平日日勤帯の体制強化を図りました。また、当直における問題点の改善、救急医療における院内トリアージ強化、コールワンマスター研修などに取り組みました。 ●以上のような取組を行いました。周辺病院の救急患者受入体制の整備等による救急自動車搬送の要請数の低下に伴い、救急自動車搬送受入台数【成果指標】は計画期間を通じて、目標値を大幅に下回りました。特に令和2年度は、発熱外来や新型コロナウイルス感染症患者及び疑似症患者の入院のため、ERと救急後方病床を用いたことにより、救急車の受入れを制限したことが大きく影響していると考えられます。 ●医師数の減少により、夜間休日救急外来非応需率は、計画期間を通じて目標値に達せず、救急患者数【成果指標】も計画期間を通じて、目標値を大幅に下回りました。 ●以上により、成果指標以外の状況も勘案して、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、市内における人口増加や高齢化の進展に伴い救急需要が増大することから、より多くの二次救急患者を受け入れられるよう、救急告示病院としての体制を強化します。
			R2目標値 (最終年度)	3,500件以上	H29	E	
			R2実績値 (最終年度)	2,194件	H30	E	
		救急患者数	H26実績値 (計画策定前)	8,158人	R元	E	
			R2目標値 (最終年度)	9,200人以上	R2	D	
			R2実績値 (最終年度)	6,934人			
② 災害医療機能の維持	神奈川県指定の災害協力病院として、災害発生時には災害拠点病院と連携し、円滑に傷病者等を受け入れられるよう必要な準備を行い、災害医療機能を維持します。また、災害発生による物資供給の途絶時に備え、必要な食料、飲料水、医薬品の備蓄に努めます。	災害拠点病院と連携した災害訓練の実施	H26実績値 (計画策定前)	実施	H28	C	【5か年の成果】 ●災害協力病院として、災害拠点病院と連携し円滑に傷病者等を受け入れるため、院内災害医療対応訓練や部署別災害訓練を毎年行いました。その結果、災害拠点病院と連携した災害訓練の実施【成果指標】について、計画期間を通じて目標値を達成しました。 ●また、災害発生による物資供給の途絶時に備え、必要な食料、飲料水、医薬品の備蓄に努めました。その結果、食料・飲料水・医薬品の院内備蓄確保量【成果指標】は、全ての年度において、目標値である3日分を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、神奈川県指定の災害協力病院として、災害発生時には災害拠点病院と連携し、円滑に傷病者等を受け入れられるよう必要な準備を行い、災害医療機能を維持します。また、災害発生による物資供給の途絶時に備え、必要な食料、飲料水、医薬品の備蓄に努めます。さらに今後は、高台の立地により、昨今多発する風水害に強い病院としての特徴を生かし、災害拠点病院の指定を目指します。
			R2目標値 (最終年度)	実施（毎年）	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	実施	H30	C	
		食料・飲料水・医薬品の院内備蓄確保量	H26実績値 (計画策定前)	3日間分	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	3日間分	R2	C	
			R2実績値 (最終年度)	3日間分			

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性	
			実績値	目標値	年度	達成度		
多摩病院								
① 救急医療 (一次(初期)・二次)の安定的な提供	救急災害医療センターの運営にあたりましては、24時間365日の救急患者に関して診療要請を断らない診療体制を構築し、やむを得ず救急患者への対応が困難な場合は、他の救急医療施設との連携を図ります。また、小児救急患者につきましては、川崎市小児科病院群輪番病院として、年間を通して夜間や休日における初期応需機関からの転送患者の受入れを行うとともに、小児科専門医もしくは小児科救急医療を習得した医師が診療し、原則として、直接小児科病棟に入院します。	救急自動車搬送受入台数	H26実績値 (計画策定前)	4,012件	H28	B	【5か年の成果】 ●救急災害医療センターにおける断らない診療体制を構築するため、また、川崎市小児科病院群輪番病院として、年間を通して夜間や休日における受入れを行うため、救急専門医及び小児科医の安定的な確保に取り組みました。その結果、救急自動車搬送受入台数【成果指標】は、令和元年度まで目標値を上回る結果となりましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行や、緊急事態宣言発出による外出自粛等の影響により、目標値を大幅に下回りました。 ●救急患者数【成果指標】も同様に、令和2年度はコロナの影響により、目標値を大幅に下回りました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「E」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	4,200件以上	H29	C		
			R2実績値 (最終年度)	3,578件	H30	A		
		救急患者数	H26実績値 (計画策定前)	11,851人	R元	A		【次期計画への方向性】 ●引き続き、救急災害医療センターの運営にあたりましては、24時間365日の救急患者に関して診療要請を断らない診療体制を構築し、やむを得ず救急患者への対応が困難な場合は、他の救急医療施設との連携を図ります。また、小児救急患者につきましては、川崎市小児科病院群輪番病院として、年間を通して夜間や休日における初期応需機関からの転送患者の受入れを行うとともに、小児科専門医もしくは小児科救急医療を習得した医師が診療し、原則として、直接小児科病棟に入院できるようにします。
			R2目標値 (最終年度)	13,000人以上	R2	E		
			R2実績値 (最終年度)	7,820人				
② 災害医療機能の維持	災害拠点病院として、災害派遣医療チーム(DMAT)を保有・拡充し、被災地等に医療チームを派遣します。また、災害発生による孤立化(物資供給等の途絶時など)に備え、十分な食料、飲料水、医薬品の備蓄に努めます。	DMAT 隊員養成研修修了者数	H26実績値 (計画策定前)	4人	H28	B	【5か年の成果】 ●災害拠点病院として、市内外の様々な災害又は事故現場に医療チーム等を派遣することを目指し、日本DMAT隊員の維持・確保に努めました。その結果、DMAT隊員養成研修修了者数【成果指標】は、ほぼ毎年増員に取り組み、全ての年度で目標値を上回って達成しました。 ●また、院内における災害訓練、部署別訓練の他、市や消防と連携した訓練も毎年実施しました。令和2年度は、コロナ禍での開催のため規模を縮小した机上訓練としましたが、洪水時の水害対策をテーマとし、水害対策マニュアルの検証を行いました。 ●災害発生時の孤立化に備え、必要な食料、医療水、医薬品の備蓄に取り組みました。その結果、食料・飲料水・医薬品の院内備蓄確保量【成果指標】について、全ての年度において、3日間程度の備蓄の確保と消費期限に応じた入れ換えを行い、目標値を達成しました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「B」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	8人	H29	C		
			R2実績値 (最終年度)	11人	H30	B		
		食料・飲料水・医薬品の院内備蓄確保量	H26実績値 (計画策定前)	3日間分	R元	A		【次期計画への方向性】 ●引き続き、災害拠点病院として、災害派遣医療チーム(DMAT)を保有・拡充し、被災地等に医療チームを派遣します。また、災害発生による孤立化(物資供給等の途絶時など)に備え、十分な食料、飲料水、医薬品の備蓄に努めます。
			R2目標値 (最終年度)	3日間分	R2	B		
			R2実績値 (最終年度)	3日間分				

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
川崎病院							
○ がん診療機能の強化	がん患者がその居住する地域において、病状に応じた適切な医療が受けられるよう、がん診療機能の強化・拡充を進め、「神奈川県がん診療連携指定病院」の指定を目指します。	がん登録数	H27報告値 (計画策定前)	1,205件	H28	C	<p>【5か年の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●がん診療機能の強化・拡充を進めるため、平成28年度に内視鏡手術用支援機器、平成29年度にPET-CTを導入、令和元年度にはMR1、令和2年度にはCTを更新するなど設備の更新を図るとともに、地域がん診療連携バスの連携先を増やし、地域と連携したがん診療体制を充実させました。 ●その結果、がん登録数【成果指標】は毎年増加し、令和2年度は目標値を大幅に上回って達成しました。 ●手術件数【成果指標】は毎年増加しましたが、目標値には至らず、令和2年度はコロナの影響による予定手術の抑制もあり、目標値未達となりました。 ●神奈川県がん診療連携指定病院の指定【成果指標】については、平成29年3月に新規指定を受け、令和2年に更新指定を受けたことにより、目標値を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「B」としました。 <p>【次期計画への方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、がん診療機能の強化・拡充を図るため、手術・放射線治療・化学療法等の推進、緩和ケア医療の充実、がん相談体制の充実等に取り組みます。
			R2目標値 (最終年度)	1,350件以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	1,710件			
		神奈川県がん診療連携指定病院の指定	H26実績値 (計画策定前)	—	H30	C	
			R2目標値 (最終年度)	29年度指定			
			R2実績値 (最終年度)	維持			
		がん手術件数	H26実績値 (計画策定前)	1,061件	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	1,160件以上			
			R2実績値 (最終年度)	1,091件	R2	B	
井田病院							
① 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化	川崎南部保健医療圏における地域がん診療連携拠点病院として、安心して治療を受けられるよう、地域連携クリニカルパスを積極的に活用した地域完結型の医療を推進するなど、がん診療機能の強化を図ります。また「がんサロン」をはじめとするサポートプログラムにより、患者・家族の支援に努めます。	がん登録数	H27報告値 (計画策定前)	1,109件	H28	B	<p>【5か年の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域完結型の医療を推進するなど、がん診療機能の強化を図るため、化学療法センターの安定的な運営、高度な検査・治療機器の計画的な更新を行うとともに、内視鏡検査枠の増加、市民公開講座や出前講座等による啓発活動に取り組みました。その結果、がん登録数【成果指標】は、全ての年度において、目標値を達成し、令和2年度は目標値を大幅に上回りました。 ●また、内視鏡検査件数【成果指標】は、計画当初は順調に推移しましたが、令和30年4月以降、対象者が減少したため、令和2年度は目標値を大幅に下回りました。 ●内視鏡治療件数【成果指標】は、令和元年度まで目標値を上回っていましたが、令和2年度は、目標値を大幅に下回る結果となりました。なお、がんに対するものに限定すれば、前年度を上回った結果となりました。 ●がん手術件数【成果指標】は、医師の確保状況により、ばらつきはありますが、令和2年度は目標値を大幅に下回る結果となりました。しかし、地域がん診療連携拠点病院の指定要件である年間400件以上は満たしました。 ●患者・家族の支援に努めるため、がんサロン、ピアサポート、患者力を考える会、ピンクリボンサークルなど、様々なプログラムに取り組みました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催は控えましたが、電話や面談を通じた相談支援等を行いました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。 <p>【次期計画への方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、川崎南部保健医療圏における地域がん診療連携拠点病院として、安心して治療を受けられるよう、地域連携クリニカルパスを積極的に活用した地域完結型の医療を推進するなど、がん診療機能の強化を図ります。また「がんサロン」をはじめとするサポートプログラムにより、患者・家族の支援に努めます。
			R2目標値 (最終年度)	1,300件以上	H29	B	
			R2実績値 (最終年度)	1,445件			
		内視鏡検査件数	H26実績値 (計画策定前)	5,789件	H30	B	
			R2目標値 (最終年度)	7,700件以上			
			R2実績値 (最終年度)	5,253件			
		内視鏡治療件数	H26実績値 (計画策定前)	677件	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	720件以上			
			R2実績値 (最終年度)	625件	R2	D	
		がん手術件数	H26実績値 (計画策定前)	489件			
			R2目標値 (最終年度)	600件以上			
			R2実績値 (最終年度)	469件			

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
井田病院							
② 緩和ケアの推進	患者とその家族が可能な限り質の高い生活を送れるよう、がんと診断されたときから、外来・入院治療、在宅医療まで、切れ目の無い緩和ケアを提供します。また、地域医療従事者を対象とした研修会を開催するなど、緩和ケアの普及・啓発を担います。	緩和ケア患者の受入人数	H26実績値 (計画策定前)	460人	H28	C	【5か年の成果】 ●患者とその家族が可能な限り質の高い生活を送れるよう、がんと診断されたときから、外来・入院治療、在宅医療まで、切れ目の無い緩和ケアを提供するため、医師の安定的な確保、専門外来の実施、医療密度の高い患者に対する在宅診療・訪問看護に取り組みました。 ●その結果、緩和ケア患者の受入人数【成果指標】は、令和元年度までは目標値を達成していましたが、令和2年度は大幅に目標値を下回りました。 ●また、訪問診療件数【成果指標】は、平成28年度を除き、大幅に目標値を下回りました。 ●地域医療従事者等を対象とした緩和ケアの普及・啓発を行うため、緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会、かわさき在宅ケア・緩和ケア研修会を定期的で開催しました。なお、緩和ケア研修会はeラーニング受講が可能となりました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「E」としました。
			R2目標値 (最終年度)	552人以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	489人	H30	D	
		訪問診療件数	H26実績値 (計画策定前)	1,651件	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	1,700件以上	R2	E	
			R2実績値 (最終年度)	1,212件			
多摩病院							
○ 診療機能強化と報告の推進	消化器がんの診断及び治療、肝がんの集学的治療、消化器早期がんに対する内視鏡的粘膜剥離術、その他悪性腫瘍に対する化学療法を積極的に行います。また、現在既に行っている「地域がん登録（神奈川県）」及び、平成28年1月から開始された「全国がん登録」にも参加します。	がん登録数	H27報告値 (計画策定前)	841件	H28	C	【5か年の成果】 ●各種がんに対する診断、治療、集学的治療、内視鏡的粘膜剥離術、化学療法を積極的に取り組みました。その結果、平成29年度に腫瘍内科を標榜して以降、医師の交代により一時的に減少した年度があったものの、化学療法の件数は増加し、令和2年度も目標値を大きく上回って達成しました。 ●また地域がん登録（神奈川県）及び全国がん登録に参加した結果、がん登録数【成果指標】は計画期間を通じて一度も目標値を達成することができませんでした。初発の患者が減少したためと考えられます。 ●一方、がん手術件数【成果指標】は、計画当初から順調に推移し、目標値を上方修正しましたが、再発・転移等の件数増加等により令和2年度も目標値を上回って達成しました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。
			R2目標値 (最終年度)	850件以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	610件	H30	C	
		がん手術件数	H26実績値 (計画策定前)	307件	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	350件以上	R2	D	
			R2実績値 (最終年度)	372件			
【次期計画への方向性】 ●引き続き、患者とその家族が可能な限り質の高い生活を送れるよう、がんと診断されたときから、外来・入院治療、在宅医療まで、切れ目の無い緩和ケアを提供します。また、地域医療従事者を対象とした研修会を開催するなど、緩和ケアの普及・啓発を担います。							

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
川崎病院							
① 小児・周産期医療の確保	地域周産期母子医療センターとして、出産前後の母体・胎児や新生児に対する高度で専門的な医療を継続的かつ安定的に提供します。また、市内出生数は減少傾向ですが、ハイリスク妊娠は増加しているため、通常分娩についても積極的に受け入れます。	周産期救急搬送患者受入件数	H26実績値 (計画策定前)	115件	H28	C	【5か年の成果】 ●地域周産期母子医療センターとして、出産前後の母体・胎児や新生児に対する高度で専門的な医療を継続的かつ安定的に提供するため、医師の安定的な確保に取り組みました。 ●しかしながら、周産期救急搬送患者の受入件数【成果指標】は、令和元年度以降、大幅に減少し、目標値を大幅に下回りました。また、NICU及びGCUにおける新規入院患者数【成果指標】は、計画期間中に一度も目標値に達することなく、令和2年度も達成できませんでした。 ●通常分娩の積極的な受け入れを目指し、平成29年度から正常新生児の聴覚スクリーニング検査、新版K式発達検査を開始し、平成30年度には産後うつスクリーニングを開始するなど、医療サービスとフォローアップの向上に努めましたが、分娩件数【成果指標】は平成29年度以降、目標値に達することなく、令和2年度も達成できませんでした。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「E」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、地域周産期母子医療センターとして、出産前後の母体・胎児や申請時に対する高度で専門的な医療を継続的かつ安定的な提供と、ハイリスク妊娠に対応できる通常分娩の積極的な受け入れに取組みます。
			R2目標値 (最終年度)	130件以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	49件			
		NICU及びGCUにおける新規入院患者数	H26実績値 (計画策定前)	314人	H30	D	
			R2目標値 (最終年度)	332人以上			
			R2実績値 (最終年度)	192人	R元	E	
		分娩件数	H26実績値 (計画策定前)	1,065件			
			R2目標値 (最終年度)	1,065件以上	R2	E	
			R2実績値 (最終年度)	715件			
② 内視鏡検査・治療の充実	診療科間の更なる連携等により実施体制の強化を進め、高齢化の進展とともに増加する内視鏡検査及び内視鏡治療に対する医療ニーズに応えます。	内視鏡検査件数	H26実績値 (計画策定前)	8,028件	H28	C	【5か年の成果】 ●内視鏡検査実施体制の強化を進め、増加する医療ニーズに応えるため、計画的な機器の更新などを行いました。 ●その結果、内視鏡検査件数【成果指標】はほぼ毎年目標値を達成しましたが、令和2年度は、コロナの影響により目標値を大幅に下回りました。また、内視鏡治療件数【成果指標】については、目標値を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、診療科間の更なる連携等により、実施体制の強化を進め、高齢化の進展とともに増加する内視鏡検査及び内視鏡治療に対する医療ニーズに応えられるよう取り組みます。
			R2目標値 (最終年度)	8,100件以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	6,944件	H30	B	
		内視鏡治療件数	H26実績値 (計画策定前)	1,010件	R元	B	
			R2目標値 (最終年度)	1,110件以上	R2	D	
			R2実績値 (最終年度)	1,075件			
③ チーム医療の推進	総合病院として合併症を抱えた患者にも安心して治療を受けていただけるよう、また、入院や外来通院中の患者の生活の質（QOL）の維持・向上が図られるよう、複数の医療専門職が連携して治療やケアにあたるチーム医療を推進します。チーム医療を支える看護師、薬剤師、栄養士、臨床工学技士などの専門資格取得を支援します。	栄養サポートチーム回診延べ患者数	H27見込値 (計画策定前)	1,700人	H28	B	【5か年の成果】 ●複数の医療専門職が連携して、治療やケアにあたるチーム医療の推進に取り組みました。その結果、栄養サポートチーム回診延べ患者数【成果指標】は、当初は介入依頼が増加し、目標値を上方修正しましたが、その後入院患者減により減少し、令和2年度はコロナの影響もあり、目標値未達となりました。 ●また、緩和ケアチームによる症状緩和実施患者数【成果指標】は、平成28年度から週1回の病棟ラウンドに加え、専従看護師による病棟及びベッドサイド訪問を毎日実施することにより、疼痛緩和実施数は大きく伸びたものの、成果指標である実施患者数は計画期間を通じて目標値を大幅に下回りました。 ●呼吸サポートチーム、褥瘡対策チームはメンバーの増強や診療報酬加算の開始も始めました。令和2年度から新たに認知症ケアチームの活動も開始しました。 ●チーム医療を支えるスタッフの専門資格取得を支援するため、院内研修会を行い知識の醸成を図ったほか、令和2年度を除き、毎年2名、認定看護師資格取得派遣を実施しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「E」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、総合病院として、合併症を抱えた患者にも安心して治療を受けていただけるよう、また入院や外来通院中の患者の生活の質（QOL）の維持・向上が図られるよう、複数の医療専門職が連携して治療やケアにあたるチーム医療を推進します。
			R2目標値 (最終年度)	1,800人以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	1,661人	H30	C	
		緩和ケアチームによる症状緩和実施患者数	H26実績値 (計画策定前)	240人	R元	D	
			R2目標値 (最終年度)	250人以上	R2	E	
			R2実績値 (最終年度)	116人			

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
井田病院							
① チーム医療の推進	入院や外来通院中の患者の生活の質（QOL）の維持・向上が図られるよう、複数の医療専門職が連携して治療やケアにあたるチーム医療を推進します。また、臓器別センター制（消化器センター、呼吸器センター、腎・泌尿器センター）等、複数の診療科間のチーム医療体制の充実に取り組みます。	緩和ケアチームによる症状緩和実施患者数	H26実績値 (計画策定前)	436人	H28	B	【5か年の成果】 ●複数の医療専門職が連携して、治療やケアにあたるチーム医療の推進に取り組みました。その結果、緩和ケアチームによる症状緩和実施患者数【成果指標】は、令和2年度は、目標値を達成しました。 ●栄養サポートチーム回診延べ患者数【成果指標】は、当初は順調に推移しましたが、平成30年度以降は、専従者交代に伴い実績が伸びず、令和2年度は目標値を大幅に下回りました。しかしながら、チーム活動においては定例で症例報告、検討を行うとともに、摂食嚥下支援チームを立ち上げ、資質向上、早期介入に努めました。 ●褥瘡院内発生件数【成果指標】は、計画期間を通じて、大幅に目標値を上回って達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。
			R2目標値 (最終年度)	450人以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	429人			
		栄養サポートチーム回診延べ患者数	H26実績値 (計画策定前)	1,111人	H30	C	
			R2目標値 (最終年度)	1,300人以上			
			R2実績値 (最終年度)	1,090人			
		褥瘡院内発生件数	H26実績値 (計画策定前)	115件	R元	B	
			R2目標値 (最終年度)	115件以下	R2		
			R2実績値 (最終年度)	59件			
② 成人疾患医療の充実	糖尿病、慢性腎不全、高血圧、高脂血症、脳及び心血管疾患など、広範囲にわたる成人疾患に対応する質の高い医療を提供します。また、地域の医療機関との連携を図りながら、患者の状況に応じ高度・専門的な医療に対応していきます。	糖尿病教育入院実患者数	H26実績値 (計画策定前)	22人	H28	C	【5か年の成果】 ●広範囲にわたる成人疾患に対応する質の高い医療を提供するため、専門外来を複数設置し、患者の医療ニーズに合わせた支援を行うとともに、患者一人一人に寄り添った診察となるよう取り組みました。その結果、専門外来の設置数【成果指標】は、平成28年度を除き目標値を達成することができました。 ●地域の医療機関との連携を図りながら、患者の状況に応じ、高度・専門的な医療に取り組みました。その結果、糖尿病教育入院実患者数【成果指標】は、地域医療連携の取組により紹介患者が増加したため、年度途中で目標を上回って達成しましたが、眼科や歯科受診をはじめ全身の検査も開始することにより、令和2年度も目標値を大幅に上回って達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「A」としました。
			R2目標値 (最終年度)	30人以上	H29	B	
			R2実績値 (最終年度)	35人	H30	A	
		専門外来の設置数	H26実績値 (計画策定前)	20	R元	A	
			R2目標値 (最終年度)	23	R2	A	
			R2実績値 (最終年度)	28			
【次期計画への方向性】 ●引き続き、糖尿病、慢性腎不全、高血圧、高脂血症、脳及び心血管疾患など、広範囲にわたる成人疾患に対応する質の高い医療を提供します。また、地域の医療機関との連携を図りながら、患者の状況に応じ高度・専門的な医療に対応していきます。							

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
多摩病院							
① 循環器内科における診療の充実	緊急性・重篤性のある疾患を対象とした、心臓カテーテル検査、ペースメーカー治療、カテーテル・インターベンション治療等を目的とする短期入院診療を充実します。また、経皮経冠動脈形成術（PTCA）、不整脈、心臓ペースメーカーの専門外来を継続します。	心臓血管系造影件数	H26実績値 (計画策定前)	734件	H28	D	【5か年の成果】 ●緊急性・重篤性のある疾患を対象とした短期入院診療を充実させるため、循環器内科医の安定的な確保に取り組みました。医師の確保については必ずしも目標を達成することはできませんでしたが、心疾患領域における短期入院診療の充実については、令和元年度までほぼ目標値を達成しました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症患者の受入医療機関として対応しており、年度後半には、院内でのクラスター発生、神奈川県より緊急性の低い入院や手術の延期要請等があったため、目標値を大きく下回りました。 ●その結果、心臓血管系造影件数【成果指標】は、目標値を達成した年度もありましたが、令和2年度はコロナ禍により、計画期間中で最も低い数字となり、目標値を大幅に下回りました。 ●また、循環器内科入院・外来延患者数【成果指標】は、当初は順調に推移しましたが、令和元年度以降は新型コロナウイルスの影響により、目標値を下回り、令和2年度は計画期間中で最も低い数字となりました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「E」としました。
			R2目標値 (最終年度)	740件以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	506件	H30	C	
		循環器内科入院・外来延患者数	H26実績値 (計画策定前)	19,786人	R元	D	
			R2目標値 (最終年度)	19,800人以上	R2	E	
			R2実績値 (最終年度)	14,352人	/		
② 脳神経外科における診療の充実	脳卒中患者等に対する脳血管内手術はもとより、血栓溶解療法（t-PA治療）につきましては、発症後4時間半以内に緊急で対応します。また、脳出血、水頭症、下垂体腺腫などに対する神経内視鏡手術を行うとともに、脳腫瘍、脳血管障害、てんかん、認知症、頭痛の専門外来を継続します。当直、オンコール体制による緊急受入れに努め、地域医療に貢献します。	脳血管系造影件数	H26実績値 (計画策定前)	214件	H28	D	【5か年の成果】 ●脳神経外科における診療の充実を図るため、脳神経外科医の安定的な確保に努めました。 ●脳卒中患者等に対する脳血管内手術はもとより、血栓溶解療法（t-PA治療）について緊急対応に取り組んだ結果、計画期間を通じ、目標値を達成しました。 ●また、各疾患に対して神経内視鏡手術を行うとともに、関連疾患の専門外来を継続しました。 ●しかしながら、脳血管系造影件数【成果指標】は、計画期間を通じて目標値を大幅に下回りました。近隣に脳神経外科クリニックが開業したことや画像検査センターが増えたこと、また令和2年度は新型コロナウイルスが影響したものです。 ●同様に、脳神経外科入院・外来延患者数【成果指標】も、目標値を達成することはできませんでした。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「E」としました。
			R2目標値 (最終年度)	220件以上	H29	D	
			R2実績値 (最終年度)	61件	H30	D	
		脳神経外科入院・外来延患者数	H26実績値 (計画策定前)	16,298人	R元	D	
			R2目標値 (最終年度)	16,300人以上	R2	E	
			R2実績値 (最終年度)	11,309人	/		
【次期計画への方向性】 ●引き続き、循環器内科における診療の充実を図るなど、高度・専門医療の展開を目指します。							
【次期計画への方向性】 ●引き続き、脳神経外科における診療の充実を図るなど、高度・専門医療の展開を目指します。							

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性	
			実績値	目標値	年度	達成度		
川崎病院								
① 地域医療連携の推進	地域における医療機能の分化に伴い、基幹病院として求められる高度・特殊な医療を確実かつ効率的に提供していくため「かかりつけ医制度」を推進し、地域医療機関との患者の紹介・逆紹介を進めます。また、検査機器の共同利用など、地域医療を担うかかりつけ医等を支援しながら、「地域医療支援病院」の承認を目指します。	地域医療支援病院の承認	H26実績値 (計画策定前)	—	H28	B	【5か年の成果】 ●かかりつけ医制度を推進し、地域医療機関との患者の紹介・逆紹介を進めるため、継続的な医療機関訪問を行い、連携登録医を増加させるとともに、積極的な返書実施により、情報交換の推進を図りました。その結果、紹介率【成果指標】、逆紹介率【成果指標】ともに目標値を大幅に上回って達成しました。 ●また、検査機器の共同利用など、地域医療を担うかかりつけ医等の支援については、PET-CTを中心に近隣の医療機関へ積極的に説明を行い、利用の推進を図った結果、検査機器の共同利用件数【活動指標】は、ほぼ毎年目標値を達成し、令和2年度も目標を大幅に上回って達成することができました。 ●地域医療支援病院の承認【成果指標】については、平成28年度に承認され、維持に努めることにより目標値を達成しました。 ●平成29年度に初めて地域連携の会を開催して以降、毎年開催を続けています。令和2年度はコロナ禍により、オンライン開催となりましたが、連携登録医など地域の医療機関との連携強化につなげています。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「A」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	28年度承認				
			R2実績値 (最終年度)	継続				
		紹介率	H26実績値 (計画策定前)	53.7%	H29	B		【次期計画への方向性】 ●引き続き、地域における医療機能の分化に伴い、基幹病院として求められる高度・特殊な医療を確実かつ効率的に提供していくため「かかりつけ医制度」を推進し、地域医療機関との患者の紹介・逆紹介を進めます。
			R2目標値 (最終年度)	50.0%以上				
			R2実績値 (最終年度)	71.7%				
		逆紹介率	H26実績値 (計画策定前)	72.3%	R元	A		
			R2目標値 (最終年度)	70.0%以上				
			R2実績値 (最終年度)	113.4%				
		検査機器の共同利用件数	H26実績値 (計画策定前)	415件	R2	A		
			R2目標値 (最終年度)	500件以上				
			R2実績値 (最終年度)	876件				
② 地域包括ケアシステムの推進	地域包括ケアシステムによる医療・看護・介護・福祉サービス等が適切に提供されるよう、患者の同意を得た上で、地域で活動する医療・介護従事者等との患者情報の共有を進めるとともに、病院・関係機関相互に医療又は介護の知識を深められるよう、勉強会・症例検討会を開催します。	地域ケア懇談会開催数	H27実績値 (計画策定前)	2回	H28	B		
			R2目標値 (最終年度)	2回	H29	B		
			R2実績値 (最終年度)	2回	H30	B		
		勉強会・症例検討会等への地域の医療・介護従事者等参加延数	H26実績値 (計画策定前)	188人	R元	D		
			R2目標値 (最終年度)	900人以上	R2	D		
			R2実績値 (最終年度)	459人				

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性			
			実績値	目標値	年度	達成度				
井田病院										
① 地域医療連携の推進	地域における医療機能の分化に伴い、中核病院として求められる高度・特殊な医療を確実に提供していくため、かかりつけ医への受診を啓発するとともに、地域医療機関との連携を推進し、「地域医療支援病院」の承認を目指します。	地域医療支援病院の承認	H26実績値 (計画策定前)	—	H28	B	【5か年の成果】 ●地域における医療機能の分化に伴い、かかりつけ医制度を推進するため、開業医訪問や地域連携の会等を通じて地域医療機関等との顔の見える関係性を構築し、紹介患者の受診結果等の丁寧な情報共有、病院の診療体制に関する積極的な情報発信、地域の医療従事者を対象とした症例検討会や勉強会の開催等により、かかりつけ医を支援し、紹介率・逆紹介率の向上を図りました。 ●その結果、紹介率【成果指標】は、全ての年度において、目標値を大幅に上回って達成しましたが、逆紹介率【成果指標】は、平成28年度を除き、毎年、目標値を下回りました。 ●地域医療従事者等との症例検討会を毎年実施しましたが、令和2年度は目標値に達しませんでした。 ●また、検査機器の共同利用件数【成果指標】は、当院に二次検診を依頼していた企業等からの依頼が減少したことにより、全ての年度において目標値を大幅に下回りました。なお、令和2年度は近隣の医療機関からの内視鏡検査等の依頼が増え、前年度と比較して大きく増加しました。 ●地域医療支援病院の承認【成果指標】については、医師確保の問題により、ICUの施設基準の取得が困難であるため、申請は見送りました ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。			
			R2目標値 (最終年度)	29年度承認				H29	D	
			R2実績値 (最終年度)	取組の継続	H30	D				
		紹介率	H26実績値 (計画策定前)	55.0%	R元	D				
			R2目標値 (最終年度)	50.0%以上						
		逆紹介率	R2実績値 (最終年度)	57.5%	R2	D				
			H26実績値 (計画策定前)	58.6%						
		検査機器の共同利用件数	R2目標値 (最終年度)	70.0%以上	R元	D				
			R2実績値 (最終年度)	62.8%						
			H26実績値 (計画策定前)	696件						
		② 医療依存度の高い患者に対する在宅医療の提供	難病やがんの末期、人工呼吸器や在宅酸素など医療依存度の高い患者でも在宅で療養できるよう、ケアマネジメントや訪問診療、訪問看護を行います。また、地域開業医の在宅ケアを支援するため、夜間・休日の病状悪化など緊急時の受入れ（連携登録医との24時間連携）を行うなど、地域包括ケアシステムの一翼を担います。	医療依存度が高い患者に対する住診患者実数	H26実績値 (計画策定前)	182人		H28	C	【5か年の成果】 ●医療依存度の高い患者でも在宅で療養できるよう、ケアマネジメントや訪問診療、訪問看護を行うとともに、夜間・休日などの緊急受入などに取組みました。令和元年には、在宅療養後方支援病院の届出を行い、在宅からの緊急入院患者の受入れをさらに進めました。緊急住診受入れ翌日にはカンファレンスで情報共有を図るなど、患者や家族等の精神的な支援を行ったほか、円滑な退院調整・支援に取り組みました。また、在宅医療におけるNP（ナース・プラクティショナー）の活用も推進しました。 ●その結果令和2年度は、医療依存度が高い患者に対する住診患者実数【成果指標】は、目標値を大幅に下回りましたが、24時間連携登録医からの受入患者数【成果指標】は、目標値を大幅に上回りました。 ●以上により、成果指標以外の状況も勘案して、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「B」としました。
					R2目標値 (最終年度)	190人以上		H29	D	
R2実績値 (最終年度)	169人				H30	E				
24時間連携登録医からの受入患者数	H26実績値 (計画策定前)	151人	R元	E						
	R2目標値 (最終年度)	200人以上								
	R2実績値 (最終年度)	233人								
③ 地域包括ケア病床の整備と運用	地域包括ケアを支えるため、一般病床の一部を転換し、急性期後の回復期患者のリハビリテーション、在宅移行に伴う療養指導や地域の医療・ケア担当者との連携を担う「地域包括ケア病床」を整備します。	地域包括ケア病床の整備	H27実績値 (計画策定前)	—	H28	C	【5か年の成果】 ●急性期後の回復期患者のリハビリテーション、在宅移行に伴う療養指導や地域の医療・ケア担当者との連携を担う地域包括ケア病床の整備【成果指標】を平成28年度に実施し、週1回の地域包括ケア病棟受入会議による病床運用や、土曜日のリハビリテーション、また、院内デイサービスとして、季節の催し物をはじめ、ラジオ体操や折り紙・塗り絵等のアクティビティ、嚥下リハビリなどに取り組みました。 ●その結果、地域包括ケア病床の病床利用率【成果指標】は令和元年度までは順調に推移しましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で病床利用率は伸び悩み、目標を大幅に下回りました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。			
			R2目標値 (最終年度)	28年度整備	H29	A				
			R2実績値 (最終年度)	継続	H30	C				
		地域包括ケア病床の利用率	H27実績値 (計画策定前)	(未整備)	R元	C				
			R2目標値 (最終年度)	85.0%以上						
			R2実績値 (最終年度)	73.5%						
【次期計画への方向性】 ●引き続き、地域包括ケアを支えるため、地域包括ケア病棟を安定的に運営し、急性期後の回復期リハビリテーション患者の他、短期滞手術症例患者や一般病棟からの在宅復帰が見込める患者、レスパイト患者等の積極的な受入れを進めます。										

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
多摩病院							
① 地域医療支援病院の運営と強化	平成23年3月より地域医療支援病院の運用を開始し、登録紹介医との緊密な連携を構築しています。外来患者の紹介・逆紹介に対する「かかりつけ医制度」を推進します。FAX検査予約等による検査機器の共同利用による医療機関の機能分化の強化と連携の推進に努めます。また、救急遠隔読影接続システムや地域の医療機関（医院・クリニック等）との地域連携システム（Human Bridge）を運用し、更なる連携を推進します。	紹介率	H26実績値 (計画策定前)	67.9%	H28	C	【5か年の成果】 ●かかりつけ医制度を推進し、検査機器の共同利用による医療機関の機能分化の強化と連携の推進に努めるため、川崎市医師会・歯科医師会と基本協定書を締結した医師を登録紹介医として、登録紹介医制度を推進しました。 ●その結果、令和2年度の紹介率【成果指標】及び逆紹介率【成果指標】は、いずれも目標値を大幅に上回って達成しました。 ●また、検査機器の共同利用件数【成果指標】については、目標値を達成した年度もありましたが、近隣に脳神経外科クリニックが開業したことや画像検査センターが増えたこと、さらに新型コロナウイルスの影響により、令和元年度以降は大幅に目標値を下回りました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「B」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、地域医療支援病院の運用を開始し、登録紹介医との緊密な連携を構築するとともに、外来患者の紹介・逆紹介に対する「かかりつけ医制度」を推進します。
			R2目標値 (最終年度)	65.0%以上	H29	B	
			R2実績値 (最終年度)	71.9%			
		逆紹介率	H26実績値 (計画策定前)	51.8%	H30	B	
			R2目標値 (最終年度)	40.0%以上			
			R2実績値 (最終年度)	65.9%			
		検査機器の共同利用件数	H26実績値 (計画策定前)	4,724件	R元	B	
			R2目標値 (最終年度)	4,750件以上			
			R2実績値 (最終年度)	3,122件			
② 地域包括ケアシステムの推進	在宅療養を支援するために、多摩区4か所の訪問看護ステーションと設立した「多摩区・病院と在宅ケアネットワークづくりを目指す会」を更に充実させます。また、確立された紹介・逆紹介システムにより、相互のコミュニケーションの強化を図り、医療相談センター5部門の機能を更に充実します。	地域関係施設との連絡調整会議への参加回数	H26実績値 (計画策定前)	8回	H28	D	【5か年の成果】 ●在宅療養を支援するために、多摩区4か所の訪問看護ステーションと設立した「多摩区・病院と在宅ケアネットワークづくりを目指す会」の更なる充実に取組みました。その結果、令和元年度までは目標値を越えて達成しましたが、令和2年度は、コロナ禍により開催を見送りました。 ●その結果、有識者を参集して行われた連携会議等の回数【成果指標】は、令和2年度は目標値を達成できませんでした。 ●また、地域関係施設との連絡調整会議への参加回数【成果指標】は、令和2年度はコロナの影響を受け、中止となるケースもありましたが、リモート会議に切り替えることにより、目標値を達成しました。 ●地域医師会との懇親会の定期開催については、令和元年度を除き、毎年目標値を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、在宅療養を支援するために、多摩区4か所の訪問看護ステーションと設立した「多摩区・病院と在宅ケアネットワークづくりを目指す会」を更に充実させるなど、取組を推進します。
			R2目標値 (最終年度)	8回	H29	B	
			R2実績値 (最終年度)	10回	H30	B	
		有識者を参集して行われた連携会議等の回数	H26実績値 (計画策定前)	6回	R元	B	
			R2目標値 (最終年度)	6回			
			R2実績値 (最終年度)	0回			

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	実績値	目標値	
川崎病院							
① 精神科救急医療の強化	精神科救急医療基幹病院としての精神科救急患者（措置入院や医療保護入院など）の受入れ、更には精神科病床を有する総合病院としての精神疾患を有する身体合併症患者の受入れをより円滑に行うため、受入体制の強化を進めます。	精神科救急患者受入数（三次及び二次のみ）	H26実績値 (計画策定前)	26人	H28	C	【5か年の成果】 ●精神科救急医療基幹病院として、精神科救急患者を受け入れました。その結果、精神科救急患者の受入数（三次及び二次のみ）【成果指標】は、4県市協調体制の精神科救急システムを経由して行うため、当院の体制整備だけで確保することができず、これまで一度も目標値を達成することができませんでした。令和2年度は計画期間中では最も多くの患者を受け入れ、目標を達成しました。 ●精神科病床を有する総合病院として、精神疾患を有する身体合併症患者の受入れを円滑に行うため、精神科医師や精神保健福祉士の安定的な確保に努め、受入体制の強化を進めました。 ●精神科救急応需病床における平均在院日数【成果指標】は、後方移送が遅れたこと等から、計画期間中、一度も目標値に達成することはできませんでした。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。
			R2目標値 (最終年度)	29人以上	H29	D	
			R2実績値 (最終年度)	28人	H30	D	
		精神科救急応需病床(2床)における平均在院日数	H26実績値 (計画策定前)	16.8日	R元	E	
			R2目標値 (最終年度)	17.0日以下	R2	D	
			R2実績値 (最終年度)	19.6日			
② 感染症医療の確保	感染症病床を有する市内唯一の第二種感染症指定医療機関として、受入体制を維持・強化し、新型インフルエンザや中東呼吸器症候群(MERS)をはじめとする二類感染症患者の受入れを行います。	保健所からの要請に基づく二類感染症患者入院要請応需率（結核患者を除く）	H26実績値 (計画策定前)	-	H28	C	【5か年の成果】 ●受入体制を維持・強化し、二類感染症患者の受入れを行うため、感染症を専門とする医師の安定的な確保、各種委員会参加による情報共有、受入訓練、個人防護員の着脱訓練等に取り組みました。その結果、保健所からの要請に基づく二類感染症患者入院要請応需率【成果指標】は、全ての年度において目標値を達成しました。 ●令和2年2月以降、厚生労働省、神奈川県、空港検疫所、川崎市からの新型コロナウイルス感染症陽性者の入院受入要請に積極的に対応し、陽性者333名、疑い患者78名、合計411名の患者の受入れを行いました。 ●令和2年度は、市内療養型施設での新型コロナウイルス感染症対策指導を12件実施するとともに、クラスターが発生した医療機関・介護施設等に対して、川崎市保健所とともに介入・指導を実施しました。 ●以上により、成果指標以外の状況も勘案して、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「A」としました。
			R2目標値 (最終年度)	100%	H30	C	
			R2実績値 (最終年度)	100%	R元	B	
					R2	A	
③ リハビリテーション機能の強化	早期退院及び在宅復帰に向け、リハビリテーション実施体制の充実を図り、高齢化に伴い増加するリハビリテーション需要に対応します。	自宅等に退院した患者の割合（一般病床）	H26実績値 (計画策定前)	95.4%	H28	D	【5か年の成果】 ●リハビリテーション実施体制の充実を図り、リハビリテーション需要に対応するため、新規採用職員確保と適正な育成、病棟リハビリの充実を図りました。その結果、自宅等に退院した患者の割合（一般病床）【成果指標】は、計画期間内にわたって目標値を達成することができました。 ●リハビリテーション実施単位数【成果指標】は、平成30年度に目標値を上方修正しましたが、令和2年度は目標値を大幅に上回って達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「B」としました。
			R2目標値 (最終年度)	95.4%以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	93.3%	H30	C	
		リハビリテーション実施単位数	H26実績値 (計画策定前)	61,812単位	R元	D	
			R2目標値 (最終年度)	89,000単位以上	R2	B	
			R2実績値 (最終年度)	101,132単位			
④ 医療機能再編整備の推進	市内における人口増加と高齢化の更なる進展に伴い、今後、増加が見込まれる救急搬送等の医療需要に対応するため、未利用病床の活用等も含めた医療機能の強化・拡充など、医療機能再編整備に向けた検討を進めます。	-	H26実績値 (計画策定前)	-	H28	C	【5か年の成果】 ●救急搬送等の医療需要に対応するため、医療機能再編整備に取り組み、平成29年度に川崎市立川崎病院医療機能再編整備基本計画を策定しました。令和2年度には、救命救急センター棟増築の基本設計に着手し、既存棟改修についても実施設計に着手しました。 ●エネルギーサービス事業については、令和3年2月に工事に着手しました。 ●以上により、成果指標はありませんが、取組は順調に推移していることから、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。
			R2目標値 (最終年度)	-	H30	C	
					R元	C	
					R2	C	

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目(5) その他医療提供体制の強化

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
井田病院							
○ 井田病院再編整備事業の推進	がん等の高度・特殊な医療の提供、成人疾患医療の強化、二次救急医療の充実など、医療機能の強化を基本として改築整備を行い、平成27年4月に新棟を全面開院しました。引き続き3期工事を推進し、立体駐車場や保育所、バスロータリー等の整備を進めます。	再編整備事業(3期工事)の推進	H27実績値(計画策定前)	調査・設計	H28	C	【5か年の成果】 ●3期工事を推進し、立体駐車場や保育所、バスロータリー等の整備を進めました。その結果、再編整備事業(3期工事)の推進【成果指標】は平成29年度中に工事が完了し、目標を達成しました。 ●斜面防護工事の実施【成果指標】については、平成30年4月に着手し、令和元年12月に工事を完了しました。 ●なお、令和2年度内に完了予定であった病院敷地内の広場整備工事は完了せず、令和3年度も引き続き実施することとなりました。 ●以上により、令和2年度の取組の達成度は「D」としました。 【次期計画への方向性】 ●令和3年度をもって整備は完了したため、次期計画には盛り込みません。
			R2目標値(最終年度)	29年度工事完了	H29	C	
			R2実績値(最終年度)	—	H30	D	
		斜面防護工事の実施	H27実績値(計画策定前)	—	R元	D	
			R2目標値(最終年度)	30年度工事完了	R2	D	
			R2実績値(最終年度)	—			

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
川崎病院							
① 医療従事者の確保	質の高い医療・看護を安定的に提供していくために、優秀な医療人材の安定確保に努めます。また、新たに医療事務職を採用し、精度の高い診療報酬請求事務等の維持・向上に努めます。	職場に対する総合的な職員満足度 〔職員満足度調査〕	H27実績値 (計画策定前)	36.8%	H28	C	【5か年の成果】 ●医療技術者の柔軟な採用選考、臨床研修医及び専攻医の適切な採用、積極的な実習受入等に取り組み、医療人材を安定的に確保しました。令和2年度は、新型コロナの影響により、看護師確保のための学校訪問やインターンシップ、学生実習の受入れ等については中止しましたが、病院見学会は感染対策を万全に行い、引き続き実施しました。その結果、臨床研修医は前年度よりも20件多い73件の申込みがありました。 ●以上の取組に対し、職場に対する総合的な職員満足度【成果指標】は向上せず、計画期間を通じて、目標値を大幅に下回りました。 ●精度の高い診療報酬請求事務等の維持・向上のため、医療事務職の採用に取り組み、令和2年度は4名を配置しました。その結果、レセプト査定率【成果指標】は、医療事務職による診療報酬請求事務の管理のもと、適切なレセプト点検を実施し、全ての年度において目標値を上回って達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、質の高い医療・看護を安定的に提供していくために、優秀な医療人材の安定確保に努めます。また、医療事務職を活用し、さらに職員の専門能力の向上に取り組み、診療報酬の適切な確保に努めます。
			R2目標値 (最終年度)	45.0%以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	32.1%	H30	C	
		レセプト査定率	H26実績値 (計画策定前)	0.45%	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	0.40%	R2	C	
R2実績値 (最終年度)	0.30%						
② 職員の専門能力の向上	人材育成計画に基づき、医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めます。また、臨床研修指定病院として、将来の医療を担う初期臨床研修医の指導・育成を行います。	職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	H27実績値 (計画策定前)	52.3%	H28	C	【5か年の成果】 ●人材育成計画を毎年更新し、認定看護師等の研修受講の他、院内研修会や看護協会、各種学会等が開催する研修会へ参加させ、専門職としての能力の向上に努めました。しかしながら、職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合【成果指標】については、全ての計画年度にわたって目標を達成することはできませんでした。 ●一方、認定看護師の人数【成果指標】については、定期的に職員を研修に派遣し、全ての年度にわたって目標値を大幅に上回って達成しました。 ●臨床指定病院として、将来の医療を担う初期臨床研修医の指導・育成を行うために、臨床研修指導医講習会への積極的な受講促進を図るとともに、初期臨床研修医10名に対し各科マンツーマン方式での指導体制をとり、臨床医としての基礎的臨床能力の養成に努めました。その結果、研修医1人あたりの指導医数【成果指標】は、計画期間中、ほぼすべての年度で目標値を達成し、令和2年度も目標値を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、人材育成計画に基づき、医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めます。また、臨床研修指定病院として、将来の医療を担う初期臨床研修医の指導・育成については、地域・社会への貢献としての視点も含めて取組みを推進します。
			R2目標値 (最終年度)	60.0%以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	48.9%			
		認定看護師の人数 ※()内は井田病院との合計	H27実績値 (計画策定前)	23(40)名	H30	C	
			R2目標値 (最終年度)	27(47)名	R元	C	
			R2実績値 (最終年度)	31(50)名			
		研修医1人あたりの指導医数	H27実績値 (計画策定前)	3.0名	R2	C	
			R2目標値 (最終年度)	3.2名			
			R2実績値 (最終年度)	3.2名			
③ 働きやすい職場づくり	医療従事者の業務負担軽減を図るとともに、診療や看護等に専念でき、十分な生活時間を確保できるよう、補助者の確保を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境を整備します。	「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	H27実績値 (計画策定前)	35.3%	H28	D	【5か年の成果】 ●医療従事者の業務負担軽減を図るため、医師事務作業補助者や看護補助者の確保に取り組むほか、令和元年度には医師の働き方改革について、当院の考え方と患者さんへのお願いをホームページに掲載するとともに、院内に掲示しました。 ●また、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境を整備するため、子育て支援制度の利用促進や有給休暇の取得促進に取り組みました。その結果、令和2年度は、女性及び男性の育児休業取得率、配偶者の出産特別休暇完全取得率、男性の育児参加特別休暇完全取得率は目標値を大きく上回って達成し、看護職員離職率も計画期間中、全ての年度において目標値を達成しました。 ●しかしながら、「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合【成果指標】は、計画期間中、一度も目標値に達することはできませんでした。なお、令和2年度は計画期間中で最も高い結果となっており、徐々に数値は改善しています。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、医療従事者の業務負担軽減を図るとともに、診療や看護等に専念でき、十分な生活時間を確保できるよう、補助者の確保を進めるなど、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境を整備します。
			R2目標値 (最終年度)	45.0%以上	H29	D	
					H30	E	
					R元	D	
					R2	D	

取組課題2 医療の質と患者サービスの向上

取組項目(1) 人材の確保と育成の推進

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
井田病院							
① 医療従事者の確保	質の高い医療・看護を継続的に提供していくために、優秀な医療人材の安定確保に努めます。また、新たに医療事務職を採用し、精度の高い診療報酬請求事務等の維持・向上に努めます。	職場に対する総合的な職員満足度 〔職員満足度調査〕	H27実績値 (計画策定前)	34.3%	H28	C	【5か年の成果】 ●看護師の柔軟な採用選考、臨床研修医の適切な採用、大学医局等との連携等に取り組み、医療人材を安定的に確保しました。令和2年度は、新型コロナの影響により、インターンシップはすべて中止し、学生実習の受入は限定的としました。また、院外における就職説明会や学校訪問も縮小して行いました。 ●全職員を対象としたDPC分析・診療報酬勉強会を開催し、職員の知識向上に努めました。 ●以上の取組に対し、職場に対する総合的な職員満足度【成果指標】は向上せず、計画期間中、一度も目標値に達することはできませんでした。 ●精度の高い診療報酬請求事務等の維持・向上のため、医療事務職の採用に取り組み、令和2年度は4名を配置しました。しかしながら、レセプト査定率【成果指標】は、計画期間中、一度も目標値には達しませんでした。その原因として、患者層の大多数が高齢者であることから、複数の疾患を有する患者が多く、複合した診療が必要となるため、査定率が上昇する傾向があるものと考えています。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「E」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、質の高い医療・看護を継続的に提供していくために、優秀な医療人材の安定確保に努めます。また、新たに医療事務職を採用し、精度の高い診療報酬請求事務等の維持・向上に努めます。
			R2目標値 (最終年度)	50.0%以上	H29	D	
			R2実績値 (最終年度)	36.0%	H30	E	
		レセプト査定率	H26実績値 (計画策定前)	0.13%	R元	E	
			R2目標値 (最終年度)	0.13%	R2	E	
R2実績値 (最終年度)	0.19%						
② 職員の専門能力の向上	人材育成計画に基づき、医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めます。また、臨床研修指定病院として、将来の医療を担う初期臨床研修医の指導・育成を行います。	職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	H27実績値 (計画策定前)	45.8%	H28	C	【5か年の成果】 ●医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めるため、人材育成計画を毎年更新し、認定看護師等の研修受講の他、院内研修会や各種学会等が開催する研修会へ参加させ、専門職としての能力の向上に努めました。しかしながら、職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合【成果指標】については、計画当初は目標値を達成しましたが、令和2年度は目標を達成することはできませんでした。 ●認定看護師の人数【成果指標】については、目標値を大幅に下回る時期もありましたが、令和2年度は、目標値を達成しました。 ●臨床研修指定病院として、将来の医療を担う初期臨床研修医の指導・育成を行うために、臨床研修指導医講習会への積極的な受講促進に努めました。しかしながら、平成30年度から研修医の数が増加したことにより、研修医1人あたりの指導医数が減少し、その結果、研修医1人あたりの指導医数【成果指標】は、計画当初は目標値を達成したものの、その後は目標値を大幅に下回りました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、人材育成計画に基づき、医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めます。また、臨床研修指定病院として、将来の医療を担う初期臨床研修医の指導・育成については、地域・社会への貢献として新たに項目を設けて取り組みます。
			R2目標値 (最終年度)	56.0%以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	53.1%			
		認定看護師の人数 ※()内は川崎病院との合計	H27実績値 (計画策定前)	17(40)名	H30	D	
			R2目標値 (最終年度)	20(47)名			
			R2実績値 (最終年度)	19(50)名	R元	E	
		研修医1人あたりの指導医数	H27実績値 (計画策定前)	4.7名	R2	D	
			R2目標値 (最終年度)	4.9名			
			R2実績値 (最終年度)	3.8名			
③ 働きやすい職場づくり	医療従事者の業務負担軽減を図るとともに、診療や看護等に専念でき、十分な生活時間を確保できるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境を整備します。	「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	H27実績値 (計画策定前)	39.1%	H28	D	【5か年の成果】 ●医療従事者の業務負担軽減を図るため、医師事務作業補助者の確保に取り組みほか、平成30年度に「川崎市立井田病院働き方改革推進委員会」を設置し、医師及び看護職員の負担軽減や他職種とのタスクシェアリング等について評価、検討を行いました。 ●また、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境を整備するため、子育て支援制度の利用促進や有給休暇の取得促進に取り組みました。その結果、令和2年度は、年次有給休暇平均取得日数は目標値を上回り、看護職員離職率も目標値を上回って達成しました。 ●しかしながら、「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合【成果指標】は、計画期間中は、ほとんどの年度で目標値に達することはできず、令和2年度も未達となりました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、医療従事者の業務負担軽減を図るとともに、診療や看護等に専念でき、十分な生活時間を確保できるよう、補助者の確保を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境を整備します。
			R2目標値 (最終年度)	50.0%以上	H30	E	
					R元	E	
			R2実績値 (最終年度)	46.8%	R2	D	

取組課題2 医療の質と患者サービスの向上

取組項目(1) 人材の確保と育成の推進

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性	
			実績値	目標値	年度	達成度		
多摩病院								
① 医療従事者の確保	必要な医療従事者と有資格者の配置、看護師確保のための学校訪問等を行うとともに、臨床研修医の受入れや医学生・看護学生の実習の受入れを実施します。また、医師・看護師の負担軽減を推進します。	基幹型臨床研修医の受入れ	H27実績値 (計画策定前)	2名	H28	A	【5か年の成果】 ●必要な医療従事者と有資格者の配置、看護師確保のための学校訪問等を行うとともに、臨床研修医の受入れや医学生・看護学生の実習の受入れに取組みました。その結果、病院実習生の受入れ（看護師）は、令和元年度まで目標値を上回る実績となりましたが、令和2年度は、コロナの影響により、大幅に減少しました。 ●また、基幹型臨床研修医の受入れ【成果指標】は、年々増加し、令和2年度も目標値を大幅に上回って達成しました。 ●医師・看護師の負担軽減の推進に取り組んだ結果、医師事務作業補助者の人数【成果指標】は、計画当初から順調に推移し、平成30年度から目標値を上方修正しましたが、令和2年度も含め、毎年目標値を大きく上回って達成しました。 ●また、職員の要望や苦情等の抽出と改善、職員間の親睦を図るためのレクリエーション等の企画と運営、全職員に共通する教育・研修の企画と実施、などに取り組みました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「A」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	8名	H29	A		
			R2実績値 (最終年度)	10名	H30	A		
		医師事務作業補助者の人数	H27実績値 (計画策定前)	7名	R元	A		【次期計画への方向性】 ●引き続き、必要な医療従事者と有資格者の配置、看護師確保のための学校訪問等を行うとともに、臨床研修医の受入れや医学生・看護学生の実習の受入れを実施します。
			R2目標値 (最終年度)	10名	R2	A		
			R2実績値 (最終年度)	17名				
② 職員の専門能力の向上	認定看護師・診療情報管理士などの育成を更に推し進めます。医師や看護師をはじめ職員の積極的な学会・研修への参加を推奨し、レベルアップ・キャリアアップの機会を提供します。	認定看護師の人数	H26実績値 (計画策定前)	9名	H28	B	【5か年の成果】 ●認定看護師・診療情報管理士などの育成を更に推し進めるとともに、医師や看護師をはじめ職員の積極的な学会・研修への参加を推奨し、レベルアップ・キャリアアップの機会を提供しました。認定看護師取得のためのサポートを実施した結果、認定看護師の人数【成果指標】は、令和2年度は目標値を大幅に上回って達成しました。 ●また、診療情報管理士の人数【成果指標】は、計画当初から順調に推移し、目標値を上方修正しましたが、令和2年度も目標値を上回って達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「A」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	9名	H29	A		
			R2実績値 (最終年度)	11名	H30	C		
		診療情報管理士の人数	H26実績値 (計画策定前)	12名	R元	A		【次期計画への方向性】 ●引き続き、認定看護師・診療情報管理士などの育成を更に推し進めます。医師や看護師をはじめ職員の積極的な学会・研修への参加を推奨し、レベルアップ・キャリアアップの機会を提供します。
			R2目標値 (最終年度)	14名	R2	A		
			R2実績値 (最終年度)	15名				

取組課題2 医療の質と患者サービスの向上

取組項目(2) 医療安全の確保・向上

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
川崎病院							
○ 医療安全・院内感染対策の推進	医療事故の原因究明や再発防止に積極的に取り組むとともに、院内感染対策を徹底し、質の高い安全で安心な医療を提供します。	体制の確保 （「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出）	H27実績値 (計画策定前)	届出(継続)	H28	C	【5か年の成果】 ●医療事故の原因究明や再発防止に取り組むため、インシデント・アクシデントレポートの収集と分析、院内研修、医療安全対策に係る研修を受けた看護師等の配置を行いました。その結果「医療安全対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出【成果指標】について、全ての年度において目標を達成しました。 ●院内感染対策を徹底するため、院内感染対策講習会の実施、サーベイランスの実施、アウトブレイクの早期発見や感染制御チームの介入による早期収束を行ったほか、令和元年度は、手指衛生の向上のため、速乾性手指消毒薬を部門ごとにポシェット管理に変更しました。また、感染対策に係る十分な経験を有する医師・看護師等の配置などを行った結果、「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出【成果指標】について、全ての年度において目標を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。
			R2目標値 (最終年度)		届出(継続)	H30	
			R元	C			
			R2実績値 (最終年度)	届出(継続)	R2	C	
井田病院							
○ 医療安全・院内感染対策の推進	医療事故の原因究明や再発防止に積極的に取り組むとともに、院内感染対策を徹底し、質の高い安全で安心な医療を提供します。	体制の確保 （「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出）	H27実績値 (計画策定前)	届出(継続)	H28	C	【5か年の成果】 ●医療事故の原因究明や再発防止に取り組むため、各委員会及び掲示物を通して医療安全情報を発信し対策の周知を行うとともに、医療安全対策に関する研修会の開催、医療機器の取扱いやインシデント事例の共有を行い、医療安全の推進に努めました。また、医療安全対策に係る研修を受けた看護師等の配置を行いました。その結果「医療安全対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出【成果指標】について、全ての年度において目標を達成しました。 ●院内感染対策を徹底するため、委員会、感染対策部会、掲示物等を通して発信するとともに、感染対策・抗菌薬適正使用推進に向けた研修会を定期的に開催するなど、感染防止を推進しました。また、感染対策に係る十分な経験を有する医師・看護師等の配置等を行った結果、「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出【成果指標】について、全ての年度において目標を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。
			R2目標値 (最終年度)		届出(継続)	H30	
			R元	C			
			R2実績値 (最終年度)	届出(継続)	R2	C	
多摩病院							
○ 医療安全の強化	医療事故防止及び迅速な対応のために、職員教育体制を整備し業務改善に取り組み、安全教育の啓発に努めます。また、院内感染対策に対する職員教育を徹底し、質の高い安全で安心な医療を提供します。	体制の確保 （「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出）	H27実績値 (計画策定前)	届出(継続)	H28	C	【5か年の成果】 ●医療事故防止及び迅速な対応のために、職員教育体制を整備し業務改善に取り組み、安全教育の啓発に努めるため、医療安全対策に係る研修を受けた専門看護師等の配置や月1回の医療安全管理委員会を行いました。また、各診療科、部署毎に1名のセーフティマネージャーを任命し、全体で50人程度を配置しました。 ●院内感染対策を徹底するため、感染対策の十分な経験を有する医師・看護師等の配置や、週1回の感染制御チームによるラウンド、月1回の院内感染対策委員会を実施しました。 ●以上の結果、体制の確保（「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出）【成果指標】は、全ての年度において目標を達成しました。 ●また、コロナ禍での感染対策に病院をあげて取り組み、ダイヤモンドプリンセス号からの陽性患者受入れ以降、病院長を長とする対策会議を設け、緊急事態宣言下には毎日、まん延防止等重点措置の公示下でも月曜日、木曜日に定期的な会合を行いました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。
			R2目標値 (最終年度)		届出(継続)	H30	
			R元	C			
			R2実績値 (最終年度)	届出(継続)	R2	C	

取組課題2 医療の質と患者サービスの向上

取組項目(3) 患者に優しい病院づくり

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
川崎病院							
○ 積極的な情報発信と相談体制の強化	患者本位の分かりやすい医療の提供に努めるとともに、病院の医療機能や患者が必要とする情報の積極的な発信、相談部門の強化など、利用しやすい病院づくりを進めます。	入院患者満足度	H27実績値 (計画策定前)	86.5%	H28	D	【5か年の成果】 ●患者本位の分かりやすい医療の提供に努めるとともに、病院の医療機能や患者が必要とする情報の積極的な発信、相談部門の強化など、利用しやすい病院づくりを進めるため、クリニカル・インジケーター(臨床指標)の公表、Wi-Fiの順次整備、電話医療通訳サービスや双方向通訳デバイス(ポケットク)の導入による外国人患者に対する環境整備、外来診察待ち状況の通知ができる患者向けスマートフォンアプリ導入、デジタルサイネージの活用、市民公開講座の実施などに取り組みました。 ●また、がん相談支援センターやがんサロン、患者総合サポートセンターを設置し、入院・転院時におけるより質の高いきめ細やかな相談支援体制を構築しました。 ●その結果、入院患者満足度【成果指標】は全ての年度において、目標値を達成しました。 ●一方、外来患者満足度【成果指標】は、令和元年度以降、目標値未達となりました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。
			R2目標値 (最終年度)	89.3%以上	H29	D	
			R2実績値 (最終年度)	88.4%	H30	C	
		外来患者満足度	H27実績値 (計画策定前)	74.6%	R元	D	
			R2目標値 (最終年度)	81.7%以上	R2	D	
			R2実績値 (最終年度)	69.3%			
井田病院							
○ 市民に信頼される医療の提供と分かりやすい情報の発信	患者本位の医療の提供に努めるとともに、患者に分かりやすく利用しやすい情報の積極的な発信など、開かれた病院づくりのもと、患者サービスの向上に努めます。	入院患者満足度	H27実績値 (計画策定前)	89.8%	H28	C	【5か年の成果】 ●患者本位の分かりやすい医療の提供に努めるとともに、病院の医療機能や患者が必要とする情報の積極的な発信、相談部門の強化など、利用しやすい病院づくりを進めるため、クリニカル・インジケーター(臨床指標)の公表、Wi-Fiの順次整備、市民公開講座や出前講座の実施、意見聴取のためのモニター会議、ホームページの充実などに取り組みました。 ●その結果、入院患者満足度【成果指標】は全ての年度において、目標値を達成しました。 ●また、外来患者満足度【成果指標】についても、全ての年度において、目標値を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。
			R2目標値 (最終年度)	91.3%以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	89.6%	H30	C	
		外来患者満足度	H27実績値 (計画策定前)	81.3%	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	82.6%以上	R2	C	
			R2実績値 (最終年度)	85.2%			
多摩病院							
○ 分かりやすい情報提供と利用しやすい施設の強化	患者相談窓口を一元化した「医療相談センター」において、各種医療福祉制度の活用や退院後の療養環境に関する相談から、看護・栄養・薬剤・リハビリ相談や地域医療機関の御案内など、さまざまな御相談にに応じています。また、市民・患者に対してより理解し易く情報を提供するためにホームページを改訂するとともに、市民の健康増進や介護知識の習得に向けた市民健康講座などを、引き続き開催します。	入院患者満足度	H27実績値 (計画策定前)	86.2%	H28	C	【5か年の成果】 ●患者相談窓口を一元化した「医療相談センター」を正面玄関近くに設置し、さまざまな御相談に対応できるようになりました。 ●ホームページを活用し、患者・市民にとって、より理解し易い情報が提供できるよう、随時更新に取り組みました。令和2年度は、リニューアルに向け、粛々と作業を進めました。 ●市民の健康増進や介護知識の習得に向けた市民健康講座を開催しました。令和2年度は、コロナの影響を考慮し、web配信に切り替えた結果、前年度の参加者数より多くのアクセスがありました。 ●以上のような取組の結果、入院患者満足度【成果指標】、外来患者満足度【成果指標】ともに、令和2年度は目標値を達成しました。 ●以上により、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。
			R2目標値 (最終年度)	89.3%以上	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	90.0%	H30	C	
		外来患者満足度	H27実績値 (計画策定前)	76.9%	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	81.7%以上	R2	C	
			R2実績値 (最終年度)	85.6%			

取組課題3 強い経営体質への転換

取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
川崎病院							
-	医療機能の充実・強化を進めるとともに、限られた人材や病床等の効率的・効果的な活用や、精度の高い診療報酬請求・未収対策の強化等により、診療収入の確保に努めます。	医業収益の額	H26実績値 (計画策定前)	166.2億円	H28	C	<p>【5か年の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規入院患者の早期受入れに向け午前退院・午後入院を促進し、効率的な病床運用に努めました。 ●医療機能の充実・強化や平均在院日数の短縮、新たな診療報酬加算の取得、新型コロナウイルス感染症患者の受入れなどによる入院診療単価の上昇、地域医療連携（紹介・逆紹介）の推進などによる外来診療単価の上昇、診療科別目標管理制度の導入（平成29年度）、さらには精度の高い診療報酬請求・未収金催告・督促の強化等により、診療収入の確保を進めました。 ●こうした取組により、入院診療単価【成果指標】・外来診療単価【成果指標】は、いずれも計画最終年度となる令和2年度には目標値を大幅に上回って達成しました。 ●しかしながら、入院患者数及び外来患者数は徐々に減少し、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに減少したことから、計画最終年度となる令和2年度の医業収益の額【成果指標】及び病床利用率【成果指標】は、目標値未達となりました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。 <p>【次期計画への方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、病床や手術室など限られた医療資源の効率的な運用に取り組みとともに、施設基準ワーキングによる新たな診療報酬加算の取得検討、平均在院日数の短縮、地域医療連携の推進などによる入院診療単価、外来診療単価の上昇や、未収金対策の実施などにより診療収入の確保に取り組みます。
			R2目標値 (最終年度)	179.8億円以上			
			R2実績値 (最終年度)	165.7億円			
		入院患者1人1日 当たり診療収入 (入院診療単価)	H26実績値 (計画策定前)	58,400円	H29	D	
			R2目標値 (最終年度)	60,358円以上			
			R2実績値 (最終年度)	69,805円			
		外来患者1人1日 当たり診療収入 (外来診療単価)	H26実績値 (計画策定前)	11,429円	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	12,586円以上			
			R2実績値 (最終年度)	16,206円			
		病床利用率	H26実績値 (計画策定前)	73.1%	R2	C	
			R2目標値 (最終年度)	76.5%以上			
			R2実績値 (最終年度)	65.4%			
井田病院							
-	医療機能の充実・強化を進めるとともに、限られた人材や病床等の効率的・効果的な活用や、精度の高い診療報酬請求・未収対策の強化等により、診療収入の確保に努めます。	医業収益の額	H26実績値 (計画策定前)	67.5億円	H28	D	<p>【5か年の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規入院患者の早期受入れに向け午前退院・午後入院の促進や地域包括ケア病床の効果的な活用など、効率的な病床運用に努めました。 ●医療機能の充実・強化や新たな診療報酬加算の取得、新型コロナウイルス感染症患者の受入れなどによる入院診療単価の上昇、地域医療連携（紹介・逆紹介）の推進などによる外来診療単価の上昇、診療科別目標管理制度の導入（平成29年度）、さらには精度の高い診療報酬請求・未収金催告・督促の強化等により、診療収入の確保を進めました。 ●こうした取組により、計画最終年度となる令和2年度の入院診療単価【成果指標】は目標値を達成、外来診療単価【成果指標】は目標を大幅に上回って達成しました。 ●しかしながら、入院患者数及び外来患者数は徐々に減少し、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに減少したことから、計画最終年度となる令和2年度の医業収益の額【成果指標】及び病床利用率【成果指標】は、目標値未達となりました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「D」としました。 <p>【次期計画への方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、病床や手術室など限られた医療資源の効率的な運用に取り組みとともに、診療報酬勉強会の開催や新たな診療報酬加算の取得検討、地域医療連携の推進などによる入院診療単価、外来診療単価の上昇や未収金対策の実施などにより、診療収入の確保に取り組みます。
			R2目標値 (最終年度)	90.9億円以上			
			R2実績値 (最終年度)	77.7億円			
		入院患者1人1日 当たり診療収入 (入院診療単価)	H26実績値 (計画策定前)	45,374円	H29	D	
			R2目標値 (最終年度)	48,613円以上			
			R2実績値 (最終年度)	48,766円			
		外来患者1人1日 当たり診療収入 (外来診療単価)	H26実績値 (計画策定前)	13,400円	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	14,607円以上			
			R2実績値 (最終年度)	19,010円			
		病床利用率	H26実績値 (計画策定前)	64.0%	R2	D	
			R2目標値 (最終年度)	87.2%以上			
			R2実績値 (最終年度)	66.2%			

取組課題3 強い経営体質への転換

取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
多摩病院							
—	医療機能の充実・強化を進めるとともに、病床等の限られた資源の効率的・効果的な活用や適切な診療報酬請求・未収対策の強化等により、診療収入の確保を進めます。	医業収益の額	H26実績値 (計画策定前)	86.8億円	H28	C	<p>【5か年の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医療機能の充実・強化や、救急搬送件数・手術件数の増加、新型コロナウイルス感染症患者の受入れなどによる入院診療単価の上昇、地域医療連携（紹介・逆紹介）の推進や化学療法件数の増加などによる外来診療単価の上昇、更には電話・文書による督促、ソーシャルワーカーや医事課職員の早期介入による未収金予防策の実施等により、診療収入の確保を進めました。 ●こうした取組により、計画最終年度となる令和2年度の入院診療単価【成果指標】及び外来診療単価【成果指標】は目標を大幅に上回って達成しました。 ●しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により入院患者数及び外来患者数が減少したことから、計画最終年度となる令和2年度の医業収益の額【成果指標】及び病床利用率【成果指標】は、目標値未達となりました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。 <p>【次期計画への方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、医療機能の充実・強化による入院診療単価、外来診療単価の上昇や、督促・未収金予防策の実施等により、診療収入の確保に取り組みます。
			R2目標値 (最終年度)	89.7億円以上			
			R2実績値 (最終年度)	82.6億円	H29	B	
		入院患者1人1日 当たり診療収入 (入院診療単価)	H26実績値 (計画策定前)	55,017円	H30	B	
			R2目標値 (最終年度)	55,800円以上			
			R2実績値 (最終年度)	64,616円	R元	B	
		外来患者1人1日 当たり診療収入 (外来診療単価)	H26実績値 (計画策定前)	11,586円	R2	C	
			R2目標値 (最終年度)	11,700円以上			
			R2実績値 (最終年度)	14,991円			
		病床利用率	H26実績値 (計画策定前)	78.2%	/		
			R2目標値 (最終年度)	80.0%以上			
			R2実績値 (最終年度)	64.9%			

取組課題3 強い経営体質への転換

取組項目(2) 経費節減に向けた取組の推進

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性
			実績値	目標値	年度	達成度	
川崎病院							
-	委託業者の仕様の精査・見直しによる委託料の縮減、医療材料等のより安価な同等代替品への切り替えや適正な在庫管理などによる経費の節減に努めます。また、業務改善や効率的な業務執行などにより、時間外勤務の縮減を進めます。	職員給与費対医業収益比率	H26実績値 (計画策定前)	52.4%	H28	D	【5か年の成果】 ●業務の効率化やタスクシフティングの推進により、時間外勤務の縮減を進めました。 ●材料等の適正な在庫管理や委託仕様の見直し、医療機器保守管理費用の抑制（院内臨床工学技士による管理の推進）、一般競争入札の推進（指定競争入札案件への適用）、医療材料等の共同購入の実施などのほか、新たに診療材料購入額のベンチマークシステム（平成30年度から）や値引き交渉アドバイザーの活用（令和元年度から）等による納入価の引下げ、高額医療機器の購入と保守の合併入札による複数年のトータルコストでの競争の導入に取り組みなど、経費の節減を進めました。 ●こうした取組により、職員給与費対医業収益比率【成果指標】は、令和元年度までは各年度の目標値を概ね達成しましたが、計画最終年度となる令和2年度は60.9%に上昇し、目標値未達となりました。また、委託費対医業収益比率【成果指標】は徐々に改善し、平成30年度には13.9%まで改善しましたが、計画最終年度となる令和2年度には16.7%に上昇し、目標値未達となりました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応や受診控えなどの影響はありましたが、2つの成果指標がいずれも目標値を大幅に下回ったことから、取組の達成度は「E」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、業務の効率化やタスクシフティングの推進などによる時間外勤務の縮減や、委託仕様の見直し、医療材料等の共同購入の実施、ベンチマークシステムや値引き交渉の強化などにより、経費節減の取組を進めます。
			R2目標値 (最終年度)	53.6%以下	H29	D	
			R2実績値 (最終年度)	60.9%	H30	D	
		委託費対医業収益比率	H26実績値 (計画策定前)	14.2%	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	12.8%以下	R2	E	
			R2実績値 (最終年度)	16.7%			
井田病院							
-	委託業務の仕様の精査・見直しによる委託料の縮減、診療材料、医療機器等の購入方法や、効率的な在庫管理などにより、経費の節減に努めます。	職員給与費対医業収益比率	H26実績値 (計画策定前)	69.2%	H28	D	【5か年の成果】 ●業務の効率化やタスクシフティングの推進により、時間外勤務の縮減を進めました。 ●材料等の適正な在庫管理や委託仕様の見直し、医療機器保守管理費用の抑制（院内臨床工学技士による管理の推進）、一般競争入札の推進（指定競争入札案件への適用）、医療材料等の共同購入の実施などのほか、新たに診療材料購入額のベンチマークシステム（平成30年度から）や値引き交渉アドバイザーの活用（令和元年度から）等による納入価の引下げ、高額医療機器の購入と保守・消耗品の合併入札による複数年のトータルコストでの競争の導入に取り組みなど、経費の節減を進めました。 ●こうした取組により、職員給与費対医業収益比率【成果指標】は、令和元年度には60.7%まで低下しましたが、計画最終年度となる令和2年度は69.6%に上昇し、目標値未達となりました。また、委託費対医業収益比率【成果指標】は徐々に改善し、令和元年度には13.5%まで低下しましたが、計画最終年度となる令和2年度には17.1%まで上昇し、目標値未達となりました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応や受診控えなどの影響はありましたが、2つの成果指標がいずれも目標値を大幅に下回ったことから、取組の達成度は「E」としました。 【次期計画への方向性】 ●引き続き、業務の効率化やタスクシフティングの推進などによる時間外勤務の縮減や、委託仕様の見直し、医療材料等の共同購入の実施、ベンチマークシステムや値引き交渉の強化などにより、経費節減の取組を進めます。
			R2目標値 (最終年度)	57.9%以下	H29	D	
			R2実績値 (最終年度)	69.6%	H30	C	
		委託費対医業収益比率	H26実績値 (計画策定前)	16.4%	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	14.2%以下	R2	E	
			R2実績値 (最終年度)	17.1%			
多摩病院							
-	医療材料や医療機器等の購入費用の節減、材料等の適正な在庫管理などにより、経費の節減に努めます。また、業務改善や効率的な業務執行などにより、時間外勤務の縮減を進めます。	職員給与費対医業収益比率	H26実績値 (計画策定前)	51.0%	H28	B	【5か年の成果】 ●職員環境向上委員会における病院勤務医・看護師の役割分担の推進・負担軽減・処遇改善に係る計画の策定・評価（令和2年度からは対象を病院スタッフ全員に拡大し、医療従事者負担軽減委員会において同様の取組を実施）や、各部署における月前半での時間外勤務の把握による改善・注意喚起により、時間外勤務の縮減を進めました。 ●物流センターによる全部署の在庫見直しの実施（令和2年度から年2回）などにより、経費の節減を進めました。 ●こうした取組により、職員給与費対医業収益比率【成果指標】は令和元年度までは目標値を達成（令和元年度実績52.7%）、委託費対医業収益比率【成果指標】も令和元年度までは目標値を達成（令和元年度実績14.2%）していましたが、計画最終年度となる令和2年度にはそれぞれ63.0%、17.4%まで上昇し、目標値未達となりました。 ●その結果、計画最終年度となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応や受診控えなどの影響はありましたが、2つの成果指標がいずれも目標値を大幅に下回ったことから、取組の達成度は「E」としました。 【次期計画への方向性】 ●医療従事者負担軽減委員会における計画の策定・評価や、負担軽減検討のためのワーキンググループの設置などにより時間外勤務の縮減に取組むとともに、物流センターによる在庫管理の見直し、聖マリアンナ医科大学グループ4病院統一購入による単価・購入価の減額により、経費節減の取組を進めます。
			R2目標値 (最終年度)	53.1%以下	H29	C	
			R2実績値 (最終年度)	63.0%	H30	C	
		委託費対医業収益比率	H26実績値 (計画策定前)	15.1%	R元	C	
			R2目標値 (最終年度)	14.9%以下	R2	E	
			R2実績値 (最終年度)	17.4%			

取組課題3 強い経営体質への転換

取組項目(3) 経営管理体制の強化

※達成度 A：目標を大きく上回って達成 B：目標を上回って達成 C：ほぼ目標どおり D：目標を下回った E：目標を大きく下回った

取組項目	取組項目の説明	成果指標名	実績値・目標値		各年度の取組の達成度		5か年の成果・次期計画への方向性	
			実績値	目標値	年度	達成度		
川崎病院								
-	病院の経営状況や課題等に係る情報の共有化を徹底し、病院職員の経営意識を醸成します。また、毎年度、各部門ごとに本計画の達成に向けた目標設定を行うとともに、本庁部門と各病院三役等が出席する経営会議を定期的に開催し、その進捗管理を行うなど、経営改革を一層推進します。	「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	H27実績値 (計画策定前)	21.2%	H28	D	【5か年の成果】 ●局主催の経営会議【成果指標】(目標値を達成)・院内の幹部会議等における定期的な稼働状況・経営状況の共有化や診療科別目標管理制度の開始(平成29年度)、総合医療情報システムを用いた稼働状況資料の周知、新任・局間異動者研修会の開催等により、病院職員の経営意識の醸成を図りました。 ●診療科別目標管理制度の開始、多職種による院内ワーキンググループチームの設置(平成30年度、令和元年度から「施設基準ワーキング」に移行)による新たな診療報酬加算の取得に取り組むなど、経営改革を推進しました。 ●こうした取組により、計画初年度以降低下(H28/19.5%、H29/18.1%、H30/16.3%)していた「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合【成果指標】は、令和元年度には19.3%に改善しましたが、計画最終年度となる令和2年度は17.8%に低下し、目標値未達となりました。 ●しかしながら、施設基準ワーキングの設置により、経営管理体制の強化と稼働額の上昇が図られたことから、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	30.0%以上	H29	D		
			R2実績値 (最終年度)	17.8%	H30	D		
			経営会議開催数	H26実績値 (計画策定前)	11回	R元		C
				R2目標値 (最終年度)	10回以上	R2		C
				R2実績値 (最終年度)	12回			
井田病院								
-	病院の経営状況や課題等に係る情報の共有化を徹底し、病院職員の経営意識を醸成します。また、毎年度、各部門ごとに本計画の達成に向けた目標設定を行うとともに、本庁部門と各病院三役等が出席する経営会議を定期的に開催し、その進捗管理を行うなど、経営改革を一層推進します。	「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	H27実績値 (計画策定前)	19.5%	H28	D	【5か年の成果】 ●局主催の経営会議【成果指標】(目標値を達成)・院内の幹部会議等における定期的な稼働状況・経営状況の共有化や診療科別目標管理制度の開始(平成29年度)、中期経営計画勉強会の開催、病院運営方針等説明会の開催と部門別ヒアリングの実施、新任・局間異動者研修会の開催等により、病院職員の経営意識の醸成を図りました。 ●令和元年度から、院内に設置した経営戦略会議を定期的に開催し、経営状況についての詳細な分析や経営方針等を議論するなど、経営改革を推進しました。 ●こうした取組により、「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合【成果指標】は徐々に改善し、令和元年度には22.4%まで上昇しましたが、計画最終年度となる令和2年度は20.6%に低下し、目標値未達となりました。 ●しかしながら、院内経営戦略会議の設置により、経営管理体制の強化が図られたことから、計画最終年度となる令和2年度の取組の達成度は「C」としました。	
			R2目標値 (最終年度)	40.0%以上	H29	D		
			R2実績値 (最終年度)	20.6%	H30	D		
			経営会議開催数	H26実績値 (計画策定前)	11回	R元		C
				R2目標値 (最終年度)	10回以上	R2		C
				R2実績値 (最終年度)	12回			
多摩病院								
-	各職員が病院の経営状況を把握するために、毎月、各診療部長ならびに部門長・現場責任者の幹部職員が一同に会する会議で、収支報告並びに今後の体制に関する変更内容を周知するとともに、病院上層部と医事、会計、医療情報の各部門が一同に会した経営戦略会議を行い、今後の対応を検討します。また、月に一度、法人上層部に収支報告を行い経営改革を推進します。	経営戦略会議開催数	H26実績値 (計画策定前)	11回	H28	B	【5か年の成果】 ●院内の経営戦略会議(令和3年度から経営企画会議に名称変更)における病院の収支の共有や改善に向けた検討、幹部会議を通じた収支状況等の各職員への周知により、経営改革を推進しました。 ●経営戦略会議開催数【成果指標】は、計画期間内の全ての年度において目標値を上回ったことから、取組の達成度は、計画最終年度となる令和2年度を含めすべての年度で「B」としました。	
					H29	B		
			R2目標値 (最終年度)	11回	H30	B		
					R元	B		
R2実績値 (最終年度)	12回	R2	B	【次期計画への方向性】 ●地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供してためには経営基盤の強化が必須となりますので、引き続き、経営企画会議の開催や、幹部会議を通じた収支状況等の各職員の周知により、経営管理体制の強化に取り組めます。				